

(農業・農村に関する活動を行っている大学生の事例)

(R7年10月作成)

東京都・埼玉県

東洋大学 ～誇りと挑戦、SDGsアンバサダー制度～

● 食の未来を拓く－SDGsアンバサダー(朝霞キャンパス)

- ・東洋大学では2021年にSDGs行動憲章を制定し、学生をアンバサダーに認定して学内外での活動を推進。
- ・2024年4月に新体制となった朝霞キャンパス(生命科学部・食環境科学部)※では、農業や食の課題解決を目指す食糧班を組織し、各種の社会貢献活動を展開。

※ 活動は2021年度に群馬県板倉キャンパスで開始し、2024年4月に朝霞へ移転。

● 農業体験を身边に－民間サービスの活用で広がる挑戦

- ・2025年度は「みる・きく・しる・やる」を目標に、農家訪問と農業体験を通じて農業・食の現場に関わり、農業の実態や食品ロスの課題への理解を推進。
- ・一方、学生が農業体験を行う際、農家との直接交渉が難しいため、同大学ボランティア支援室の勧めで、農村に短期滞在できる民間仲介サービスの一つを活用。

< 活用した民間仲介サービス「ののの」 >

- ・「ののの」は、株式会社Perma futureが提供する農業ワーケーションサービス『No 農 No Life』の略称。
- ・午前は農業体験、午後は地域の学びを組み合わせる特徴が、食糧班の目的に合致したことが、活用の理由。

SDGsアンバサダー集結。キャンパスを越えた交流が力に！



まだ食べられるのに捨てない
学園祭で考える食品ロス削減



● 活動内容 – 畑で体験、地域で発見 SDGsのヒント

- ・農業体験は、静岡県のみかん農家にて、2泊3日（3名）と、3泊4日（4名）の2グループで参加。
- ・現地では、みかん畑や自然農法の野菜畑での除草や防虫作業、みかん狩りに向けた畑の整備などを実施。
- ・また、地域の市場や交流拠点を訪問し、地域の方々との交流を通じて、落下果実の再利用やジュース出荷の難しさ、温暖化による品質低下といった課題を把握。

● 今後の展望 – 地域との共創による実践型SDGsへ

- ・民間仲介サービス活用は、農家交渉や宿泊手配の負担軽減に加え、地域交流にも寄与するため、継続予定。
- ・さらに、地域課題を踏まえ、つながりのある農家さんで育った秀品未満のフルーツを使ったジャムを販売するなど、解決に向けた取り組みを強化。

● SDGsアンバサダーからお知らせ (Instagram ほか)

- ・他団体・他大学との連携、大歓迎！
- ・おにぎり写真の投稿で、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食分を届ける『おにぎりアクション』に参加しています！

<https://onigiri-action.com/>



普段見ることのない落果・剪定枝の回収で病害虫を防止！



おにぎり写真が届ける希望！
アフリカ・アジアの命の給食



★ 概要 ★

設立：2024年（朝霞キャンパス）
メンバー：23名

活動分野：持続可能な農業、食育、世界の飢餓撲滅
問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp